

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立葛巻高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

- (1) 被災地でのボランティア活動、炊き出し訓練を通じて、災害時に自分たちにできることを学び、共助の意識を養う。
- (2) 避難訓練や普通救命講習を通じて、危険に際して主体的に行動する態度や、危険回避の能力を身に付ける。

II 取組の概要

- (1) 9月5日（月）7校時 避難訓練
対象・全校
地震発生に伴う出火を想定し避難訓練を実施。避難後、消火訓練や係ごとの役割確認を行った。台風10号関連の復旧活動中であり、協力いただいた盛岡中央消防署葛巻分署には多大なるご負担をおかけした。
- (2) 11月17日（木）1～4校時 普通救命講習
対象・2学年
総合的な学習及び保健体育の授業の一環として実施した。盛岡中央消防署葛巻分署の指導の下、心肺蘇生法、AEDの適切な使用方法を中心に、実習形式で学んだ。参加者全員に講習修了証が発行された。
- (3) 11月19日（土）災害ボランティア活動
希望者（生徒37名、職員10名）
山田町での復興ボランティアを計画していたが、台風10号の被害が甚大であったため、岩泉町での災害ボランティア活動として実施した。被災後2ヶ月以上経過しても、まだ手つかずの状態の小川地区の民家の泥だし作業を行った。台風10号に関わるボランティア活動は、9月17日にも久慈市と岩泉町で行っており、本年度2回目の実施となった。
- (4) 12月13日（火）3～4校時 炊き出し体験授業
対象・1学年
家庭科の授業として実施した。炊飯器を使えないことを想定し、パッククッキングによる炊飯

実習に取り組んだ。炊き出したご飯はおにぎりにし、当日の昼食として全校生徒及び職員に配布した。家庭科の授業では、非常持ち出し袋の製作にも取り組んでおり、10月の文化祭で展示発表した。

III 取組の成果と課題

- (1) 成果
ア 災害ボランティア活動では、甚大な被害を体感するとともに、自分たちの活動が地域に役立っているという自己有用感の醸成に繋がった。
イ 普通救命講習会や炊き出し体験では、危機的状況を乗り越えるための知識や技術習得の大切さを実感することができた。
ウ 対象者を学年ごとにしたことにより、3年間を見通した防災教育の在り方を探ることができた。
- (2) 課題
ア 避難訓練の持ち方については、実践的な方法等を消防署と協力して模索していく必要がある。
イ 体育科、家庭科以外の授業においても、防災教育に関わる内容の取扱について、各教科内の指導計画の中に位置づけるような工夫が必要である。
ウ 東日本大震災津波に関わるボランティア活動も、現地から求められる内容が変化してきている。災害ボランティアについては、災害が起これない方が望ましい。ボランティア活動の在り方を考えると同時に、ボランティアに代わる学習活動を考えていく必要がある。

※ II取組みの概要の（1）～（4）の活動の様子は2枚目の写真参照。

(1) 避難訓練の様子



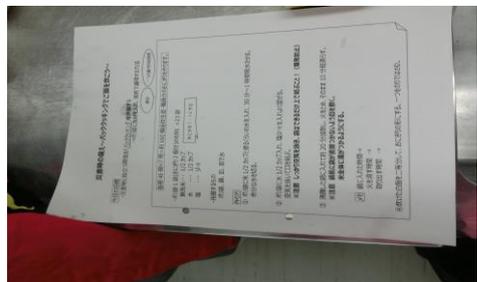
(2) 普通救命講習会の様子



(3) 災害ボランティア活動の様子



(4) 炊き出し体験の様子



〈参考〉非常持ち出し袋の文化祭展示

